



千葉県PRマスコット
キャラクター チーバくん
千葉県許諾 第A3-16号



バスで行く！

千葉の小々な旅



今回の路線

小湊鐵道バス ミレーニア循環線



小型、小回りが利く日野のポンチョが 街中の細い道、海岸線の旧道で大活躍

今回ご紹介する勝浦駅発の路線バスを運行しているのは小湊鐵道株式会社。本社は千葉県市原市五井。大正6年(1917年)に創立し、なんと100年以上も歴史がある会社です。鉄道事業のほかに路線バス・観光バス事業を展開しており、路線バスでは千葉市内はもとより、主に内房・外房地域で広く路線を展開しています。

バス事業が開始されたのは昭和22年(1947年)のこと。袖ヶ浦自動車株式会社と合併し、営業が開始されました。こちらの歴史もすでに70年以上。まさに千葉に根付いたバス会社です。

今回登場したオレンジとアイボリーのデザインがとてもかわいい車両は日野・ポンチョ。この配色は小湊鐵道の車両デザインの配色と同じものです。

まだ港町の古い佇まいを残す細い道や、勝浦海中公園方面に向かう海沿いの街道などを走行するため、小型で小回り性能が高い日野・ポンチョが活躍しています。

日野・ポンチョの特徴と言えば、何といても、その丸く可愛らしい愛嬌のある外観ですが、その機能、実力はなかなかのもの。ドアが開くとバスが傾き、ステップ高が5cm下がるニーリング機能を搭載しており、スムーズな乗降ができます。またフリースペースと広い通路幅を確保したことにより子どもをベビーカーに乗せたままでの乗車を可能にした車内など、乗る人に配慮した設計が好評で、市町村のコミュニティーバスとしても全国で多く利用されています。



◀前後にドアがある2ドア車はロングボディーのみに設定されています。

▶こちらは興津駅まで運行する興津線の路線バス。走行ルートが主に国道のため大型の車体になっています。



路線バスのワンポイント知識

皆さんがいつも使っている「バス」という名称。実はある言葉の略称から始まったのをご存じでしょうか。もともと路線バスのようなサービスは「乗合馬車」から始まったと言われています。

当時馬車はお金持ち専用の乗り物。これを「乗合」の形で誰でも乗れるようにしたことから「すべての人のために」という意味を持つ「オムニバス」という名称が使われ、これが略され「バス」になったと言われています。

JR勝浦駅を出発し、 一路、海辺にある勝浦海中公園へ

今回ご紹介するのは、勝浦駅を出発し、勝浦海中公園、海の博物館方面を目指す路線バスの小さな旅です。出発点となるのはJR外房線勝浦駅。駅前の広々としたロータリーから出発したバスは、近くまで迫る山と海岸線の間や古い港町の情景の中を走行します。時に外房線のすぐ近くを走行したり、反対側の車窓にはすぐ近くに浜辺が見えたりと、変化に富んだ風景を楽しむことができます。

路線は海沿いに出ると、海の間近を走る外房黒潮ラインをしばらく進み、勝浦海中公園や海の博物館がある小さな半島方面へ左折していきます。

すぐに見えてくるのは勝浦の漁港。何隻もの漁船が停泊していて、旅行者にとっては「おいしい魚」の予感がする風景でもあります。

街道は半島の山中に進み、道幅が狭まり、いくつかのトンネルが現れます。トンネルの壁面を見ると凹凸が目立ち、どうも手彫りで作られている様子。そしてトンネルを抜けると、まるで箱庭のような小さく素敵な海岸が突然現れたり、気分が盛り上がってきます。

くねくねと続く海沿いの狭い道を走り山を抜けると、突然空が広がります。すると目の前に今回の目的地、勝浦海中公園と海の博物館の特徴ある建物や広々とした海の風景が目飛び込んできます。

この周辺には、鵜原理想郷などもあり見どころ満載。1日を十分に楽しむことができます。



▲勝浦駅

今回の旅はJR外房線勝浦駅からスタートです。とてもきれいな勝浦湾をぐるりと回り込むようなルートで目的地に向かいます。



●勝浦朝市

日本三大朝市のひとつとして知られ400年以上もの歴史があります。勝浦産の朝採れ野菜や水揚げされたばかりの鮮魚、最近はハンドメイドの雑貨なども並び、地元の方はもちろんのこと、観光客も多く訪れる人気の朝市です。月の前半と後半で開催場所が入れ替わります。

●問い合わせ／勝浦市墨名
815-56 TEL.0470-73-2500
勝浦市観光協会



遠見岬神社

●海の博物館

千葉県立中央博物館の分館で自然を体験する施設として平成11年(1999年)3月にオープン。海に暮らす生き物や、その自然環境について知ることができる博物館です。模型やジオラマが展示され、ミニ水族館では間近に泳いでいる魚を観察することができます。

●問い合わせ／勝浦市吉尾123
TEL.0470-76-1133



とみさき ●遠見岬神社

房総半島に技術と文化をもたらした天富命をお祀りする古社で、その御由緒ははるか昔、初代天皇・神武天皇の御代まで遡るといわれています。

街全体が雛人形に彩られる「かつうらビッグひな祭り」では1800体のひな人形が飾られる階段雛が設けられる場所としても有名です。

●問い合わせ／勝浦市浜勝浦1
TEL.0470-73-0034



●鵜原理想郷

「鵜原理想郷」は、太平洋に突き出たリアス海岸が続く明神岬一帯の名称で、2km余りにわたり荒波に削られ長い時をかけて形作られた雄大な景色を堪能することができます。ハイキングコースが整備されていて、高台からの絶景を楽しむことができます。

●問い合わせ／勝浦市新宮1343-1
TEL.0470-73-6641 勝浦市観光商工課観光係



●勝浦海中公園海中展望塔
〈裏表紙でご紹介〉

▲リアス海岸の雄大な景色



▲めがね岩



▲鵜原駅



目の前を自然の魚が回遊する勝浦海中公園

今回のバスの小さな旅の目的地、勝浦海中公園は勝浦市鵜原地先の一帯に広がっています。その中心となる施設は沖合い60mの位置にある海中展望塔。高さ24.4m、水深8mで、らせん階段で降りた海中展望室の中はまるで潜水艇。窓の外にはイシダイをはじめとする魚や貝類など海の生物が自然の中で生きている姿を間近で見ることができます。

季節によって回遊する魚の種類が異なり、時には巨大な魚を目撃することも。パンフレットにここで見ることのできる魚が紹介されていますので、気に入った魚を決めて探してみても面白いでしょう。また、海上展望室からはリアス海岸の自然美や太平洋の大海原の絶景を一望することができます。

海中展望塔には、ゲートを通り、トンネルを抜けて向かいます。トンネルの先にはハコフグやイシダイの置物がお迎え。さらに通路を進んでいきますが、通路わきには小さなプールのように水が溜った、

四角く掘られた跡がたくさんあります。正体はイワシイケスとエビイケス。イワシがこのあたりで盛んに獲られていた頃、このイケスにイワシを畜養。カツオやマグロの釣り餌として遠くから漁師が買い求めにここを訪れたとのこと。



▲海中展望塔のらせん階段を降りていくと、そこは海中水族館。どんな魚に出会えるかはその日次第です。



▲海中展望塔までは海の上に建てられた栈橋を渡って行きます。



▲海上展望室からは太平洋の海原を見渡すことができます。

●問い合わせ / (一財)勝浦海中公園センター
勝浦市吉尾174 TEL.0470-76-2955



イチ押しホテル

八街ヴィラ

八街市吉倉379-2

- 営業時間 / チェックイン 15:00
チェックアウト 10:00
(屋外利用は9:30まで)
- URL / <https://yachimata-villa.com/>

一日一組限定。極上の時間を提供するプライベート空間

「八街ヴィラ」は房総半島の中心部・八街市の原風景の残る山里、豊かな自然が残るロケーションにある一日一組限定、一棟貸しのヴィラ型宿泊施設。特別な時間を過ごすための素晴らしい施設やサービスが整えられた空間です。最大6名が一緒に宿泊可能なヴィラには2つのベッドルームと広いリビングキッチンを完備。冷蔵庫

や洗濯機、電子レンジ等、さまざまな設備も用意されています。部屋の前の広々としたテラスにはプライベートのサウナ、水風呂(八街の天然井戸水)、露天風呂、プールがあり、サウナやプールを楽しみながら、バーベキューを堪能することもできます。日帰りプラン(10:00~15:00)も用意されているので、気軽に楽しむことも可能

です。



▲あなただけのプライベート空間、あなただけの時間をご提供します。

《バスで行く! 千葉の小さな旅》今月の誌上クイズ

※答えは、京葉銀行のホームページにある、「バスで行く! 千葉の小さな旅」の第6回をご覧ください。



今回ご紹介した勝浦海中公園の海中展望塔。その海中展望室の水深は何メートルでしょうか。次の3つの中から正解を1つ選んでください。

- ① 水深8m
- ② 水深24.4m
- ③ 水深60m

取材協力・撮影協力・写真提供 / 小湊鐵道株式会社、一般社団法人勝浦市観光協会、遠見岬神社、海の博物館、勝浦市観光商工課観光係、一般財団法人勝浦海中公園センター

確かな“きずな”を、未来へ。



ホームページでもご覧いただけます。

京葉銀行 情報誌

検索

LINEからも「バスで行く! 千葉の小さな旅」を配信しています。

LINE 公式アカウント



正解は→① 水深8m

2023.12
(次回発行予定 / 2024年1月19日)